



◆当面する重点作業

1. 高温により果実の日焼けが多くなる。葉摘みや支柱立ては果実温が十分に上がった午後から実施する。また、徒長枝の切りすぎ、葉の摘みすぎに注意する。
2. 定期的にかん水を実施する。特に排水が悪かった園は根が弱っているため、高温が続いた場合は早めに実施し、樹の保護を図る。
3. スモモヒメシンクイの被害が発生し始めている。防除間隔を空けすぎず、定期的に防除する。被害果がある場合は適切に処理を行う。
4. 炭そ病の果実病斑が見られたら、早急に採って土中に埋める。
5. 鳥害対策を工夫して行う。シナノリップなど特に着色の良い品種は重点的に対策を図る。
6. 早生種の収穫を適期に行う。早獲りしないよう食味を確認してから収穫を始める。

◆第11回薬剤散布について

1. 散布日：8月6日(火)～8月11日(日) 収穫中・収穫直前の品種には今回散布は行わない。

2. 調合量：水1000ℓ当り ※混用順に記載

散布日	月	日
-----	---	---

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展着剤	10ml	—	—
サムコルフロアブル	40ml	シンクイムシ類・ハマキムシ類・キンモンホソガ	前日
オーソサイド水和剤	125g	黒星病・斑点落葉病・すす斑病・すす点病・輪紋病・炭そ病・褐斑病	前日
オマイト水和剤	133g	ハダニ類	3日前

3. 散布量：10a当り ⇒600ℓ以上、

4. 留意事項

- ①果面の汚れ防止とハダニ類への効果を高めるため、「展着剤」を機能性展着剤スカッシュ1,000倍（水1000ℓ当り100ml）に代えてもよい。
- ②カイガラムシ類発生園は、コルト顆粒水和剤3,000倍（水1000ℓ当り33g）を加用散布する。
- ③殺ダニ剤散布となるので、散布3～5日前に下草刈を行うか、除草剤により雑草を処理して、ハダニを樹上に上げてから散布する。また、十分な散布量とし、散布ムラのないようにする。
なお、オマイト水和剤は、高温時の散布は薬害の発生が心配されるので避ける。
- ④収穫終了後の樹へも必ず散布する。

◆心かび果(心腐れ果)対策について

シナノリップの心かび病では、地色の抜けと着色が早い。収穫前での対策として、樹上での選果・除去が必要となる。大玉の果実を中心に着色が著しく進んでいる果実・地色の黄化が早い果実は、樹上で除去する。

◆サンつがる収穫出荷会講習会の開催について

開催日	曜	開催時間	開催場所	担当
8月9日	金	午前10:30	篠ノ井西部流通センター	徳武・寺澤
		午後 2:00	若穂果実流通センター	松沢
			真島フルーツセンター	根津

◆サンつがるの収穫前管理について

夜温18℃以下2日以上、果実糖分11度以上（糖度より温度が優先）が望ましい。

1. 葉摘み、玉回し

- ①高温乾燥により、日焼け発生が多く見られているため注意する。日当たりの良い部位（特に南～西）はあまり実施しない。日当たりの悪い部位、曇天が続く場合は、着色のため行う。
 - ②実施する場合は、乾燥が日焼けを助長するため、かん水を行って土壤水分を高めておき、果実温の高まった日中に行う。
 - ③日焼け果は、むやみに除去しない。除去する事により、枝が上がり等新たな日焼け果が発生する可能性がある。腐敗しなければ、収穫期まで、樹上に置いておく。
 - ④実施方法は、肩に着色し、葉影がみえるようになったら、果実に密着している果そうの葉を軽く摘む。葉でデンプン（糖度）とアントシアニン（赤い色素）を作るため、強い葉摘みは、光合成が劣り、かえって着色が悪くなり、日焼けを起こす。特に新しい化・高密植栽培では影響が大きい。片側の着色が、半分位着いた時点で玉回しを行うと色戻りが少ない。
2. 病虫害対策として、炭そ病・輪紋病・シンクイムシ類は、発見次第除去し、処分する。

◆カルシウム欠乏対策について

ビターピット・ジョナサンスポット、コルクスポット等カルシウム欠乏対策として、必要に応じて、下記内容により、葉面散布肥料を散布する。

1. 対策時期：継続して月に1回程度

2. 使用資材：

資材名	倍率	1000当り使用量
ストピットII	500倍	200g
スイカル	1,000倍	100g
カルビタ	1,000倍	100g
カルタス	500～1,000倍	200～100g

3. 注意事項：基本、カルシウム肥料とリン酸肥料は結合してしまうため混用しない。
ストピットIIは、白くなるので収穫前の使用は控える。